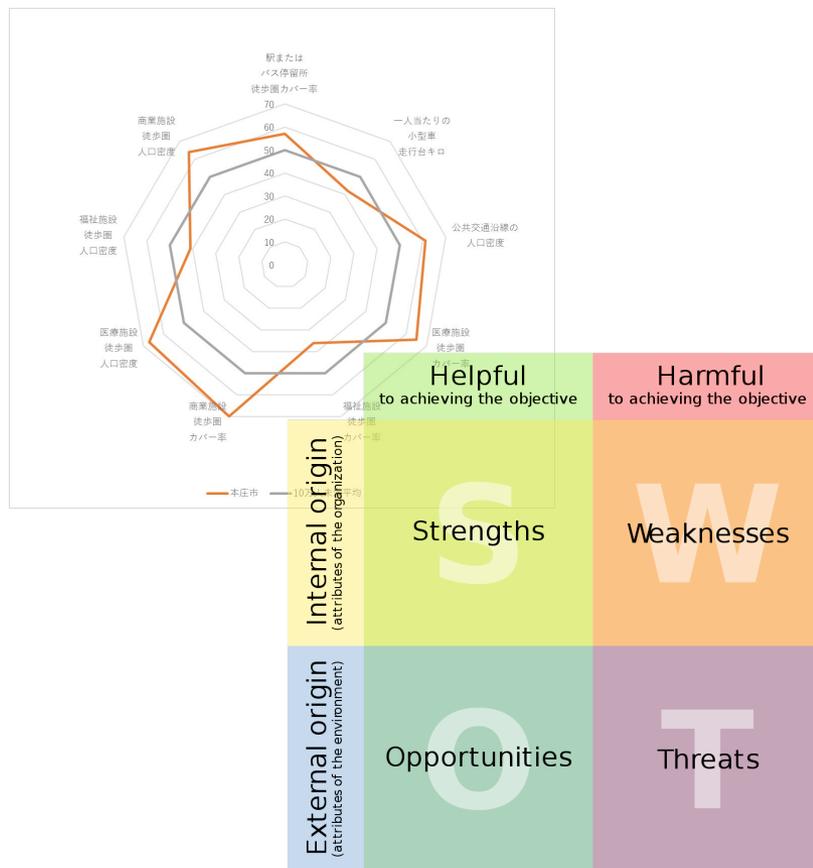


## 都市構造評価に基づく

## レーダーチャート・SWOT分析



コンパクトシティの実現のためには、現状の都市構造を定量的に評価する必要がある。

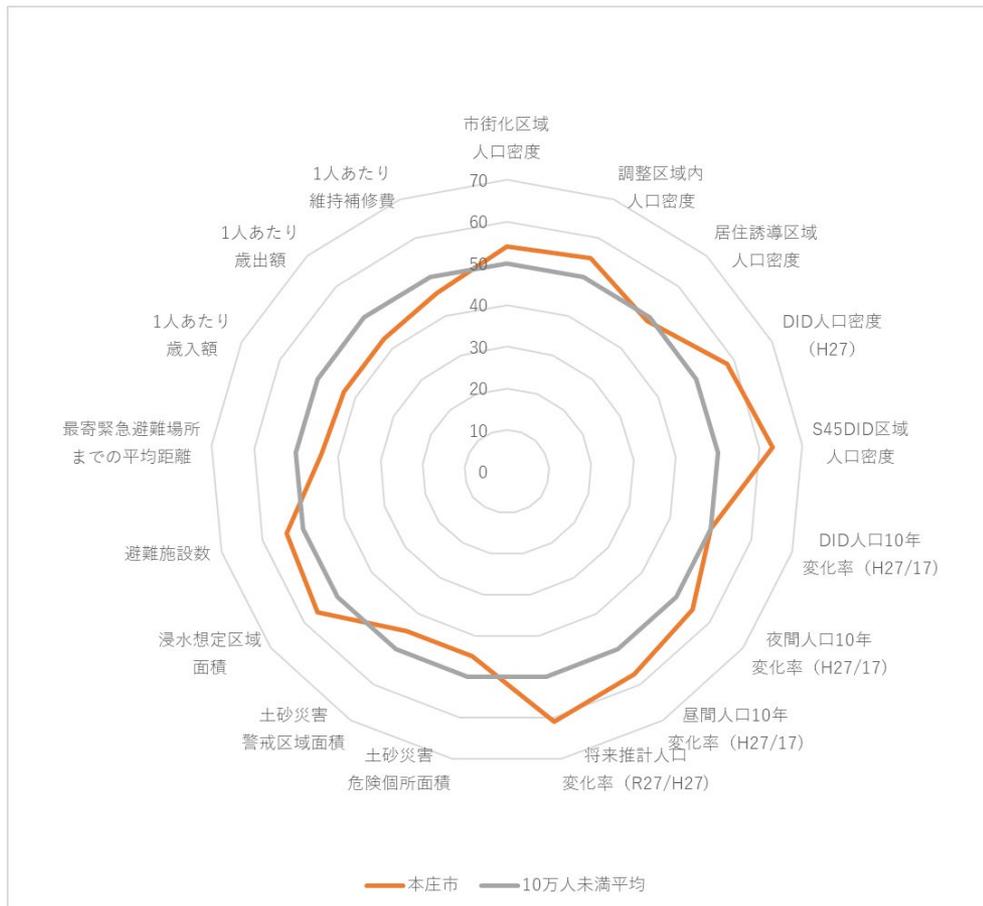
そこで、国は「都市構造の評価に関するハンドブック」を策定し、これに基づき「都市モニタリングシート」を公表している。

本資料では、都市モニタリングシートの全体表を用いて10万人未満の自治体平均を基準とした本庄市の偏差値を分野別に算出し、レーダーチャートを作成した。

あわせて、このレーダーチャートから本庄市のSWOT分析を行った。SWOT分析はマーケティングなどで用いられる分析手法であり、SWOTとはStrength (強味) Weakness (弱み)、Opportunity (機会)、Threat (脅威)の頭文字をとったものである。

また、参考として近隣の人口規模に近い都市との比較も行った。

# 人口10万人未満自治体平均との比較①人口・防災・財政



国土交通省「都市モニタリングシート」から作成

## 【人口】

- 市街化区域・市街化調整区域ともに平均より人口密度が高い
- H27DID人口密度・S45DID区域の現在の人口密度ともに平均より高い
- 夜間人口・昼間人口ともに平均より近年の減少が緩やか
- 将来に向けた人口減少が平均より緩やかであると見通されている

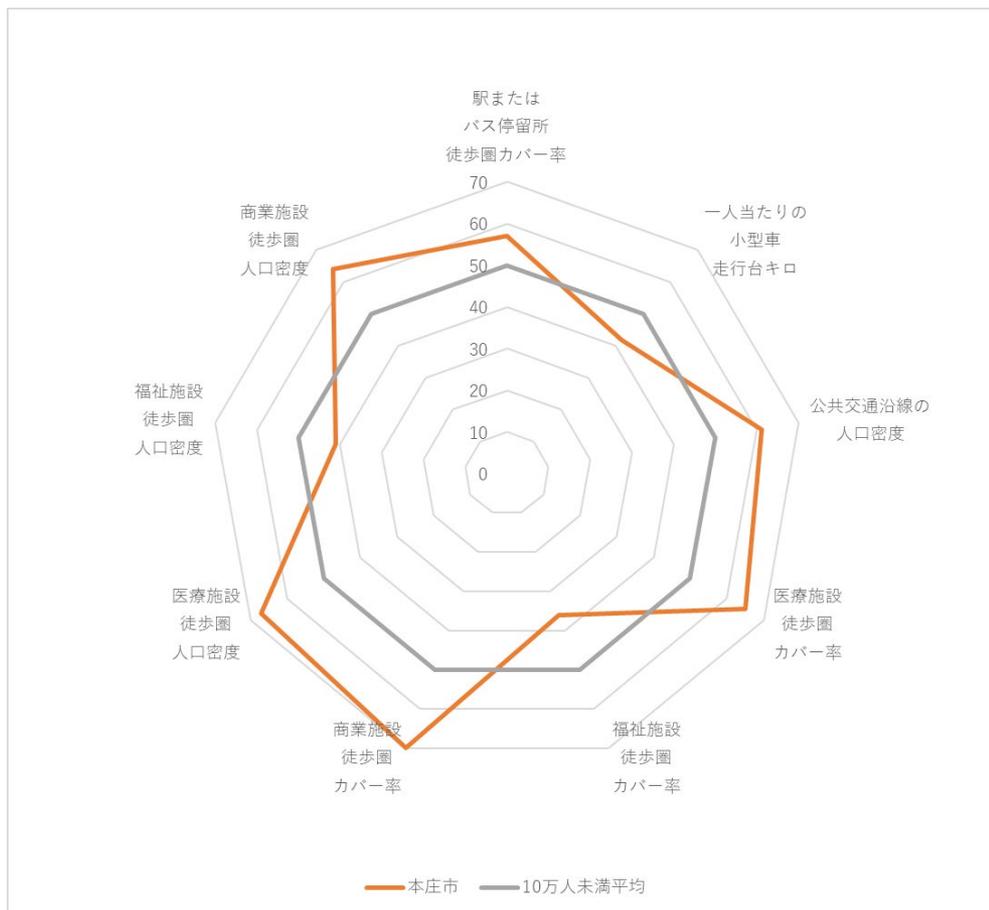
## 【防災】

- 浸水想定区域の面積は大きいですが緊急避難場所まで距離は短い

## 【財政】

- 1人当たりの歳入・歳出額、維持補修費は平均より低い

## 人口10万人未満自治体平均との比較②生活利便性



国土交通省「都市モニタリングシート」から作成

### 【交通】

- 基幹的公共交通（30本/日以上 of 運行水準）徒歩圏カバー率は平均より高く利便性が高い。沿線の人口密度も平均より高く、持続性は高い。
- 一人当たり小型車走行台キロは平均より少なくマイカー依存度は低い

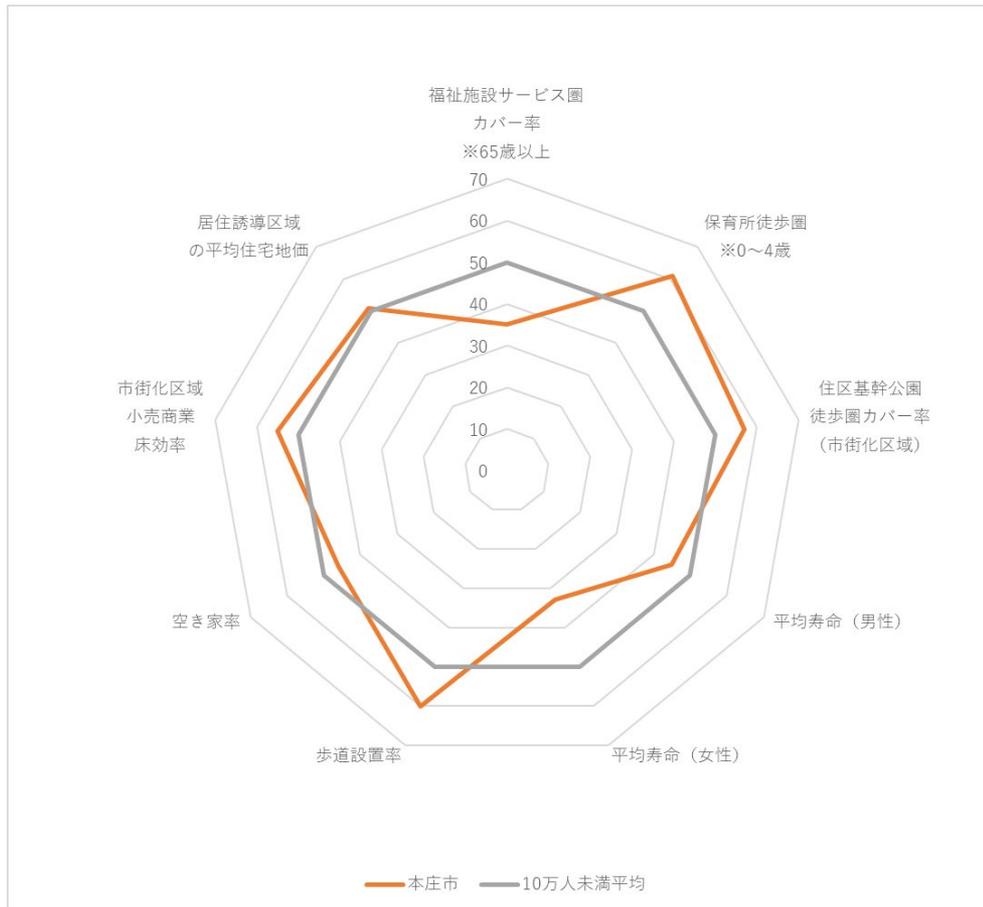
### 【医療施設・商業施設】

- 徒歩圏カバー率は平均より高く利便性が高い。徒歩圏人口密度も平均より高く持続性は高い。

### 【福祉施設】

- 徒歩圏カバー率データが0となっており、比較できない

## 人口10万人未満自治体平均との比較③健康福祉・安全・産業



国土交通省「都市モニタリングシート」から作成

### 【健康福祉】

- 福祉施設サービス圏カバー率はデータが0であり分析できない
- 保育所徒歩圏0~4歳人口カバー率は平均より高い
- 平均寿命が短い（特に女性）
- 住区基幹公園の人口カバー率は平均より高い

### 【安全】

- 歩道設置率は平均より高く歩行者安全性が高い
- 空き家率は平均より低い

### 【産業】

- 市街化区域の小売商業床効率は平均より高い

# 都市構造評価からみた本庄市のSWOT分析（人口10万人未満自治体平均との比較）

## プラス要因

## マイナス要因

### 内部環境

### Strength（強み）

- 土砂災害の危険がある区域は小さい
- 緊急避難場所が多く到達距離も短い
- 公共交通徒歩利用圏カバー率が高い
- 自家用車への依存は低い（走行キロ短い）
- 医療施設・商業施設徒歩圏カバー率が高い
- 歩道設置率が高い（交通安全性が高い）
- 空き家率が低い

### Weakness（弱み）

- 浸水想定区域面積が大きい
- 居住誘導区域人口密度が低い
- 調整区域人口密度が高い
- 市街化区域人口密度は高いが居住誘導区域人口密度は平均を下回る（居住誘導区域の設定が過大）

### 外部環境

### Opportunity（機会）

- 既成市街地の人口密度は維持されている（空洞化は顕著でない）
- 人口集中地区人口密度が高い
- 夜間人口・昼間人口共に減少が緩やか
- 将来人口の減少想定は緩やか
- 1人あたり歳出額、維持補修費は小さい
- 市街化区域内の小売商業床効率が高い
- 医療・商業施設、公共交通沿線の徒歩圏人口密度が高い（集客有利・持続性が高い）

### Threat（脅威）

- 浸水想定区域面積が大きい
- 1人あたり歳入額が小さい
- 平均寿命が短い（特に女性）

# 【参考】近隣同規模都市平均との比較①人口・防災・財政

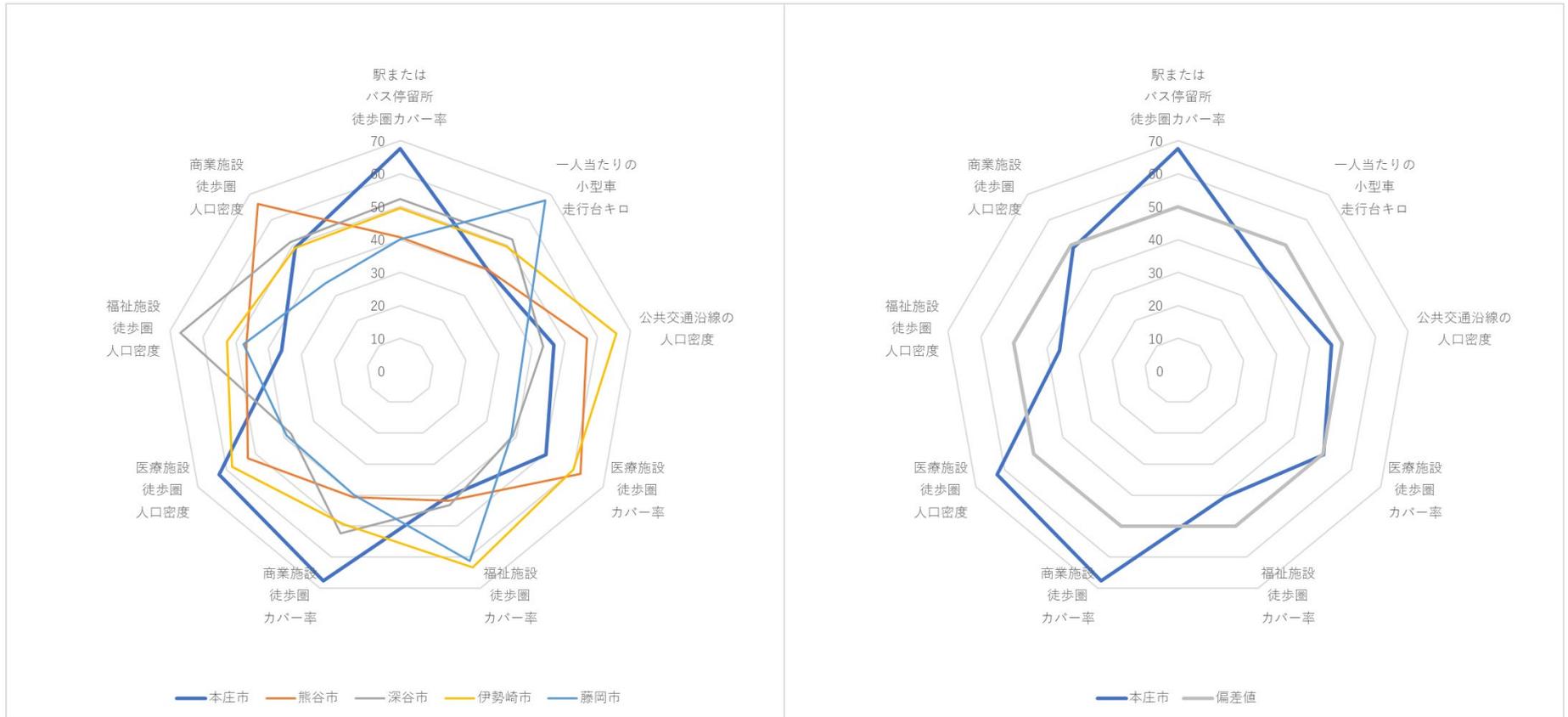


国土交通省「都市モニタリングシート」から作成

人口) 平均よりDID人口密度は高く、市街化調整区域人口密度は低い。近年の人口動向は平均より低調 (比較対象のなかでは伊勢崎市の人口の伸長が目立つ)

財政) 一人あたり維持補修費が平均より大きい (深谷市や熊谷市は一人あたり歳入歳出規模が小さい)

## 【参考】近隣同規模都市平均との比較②生活利便性



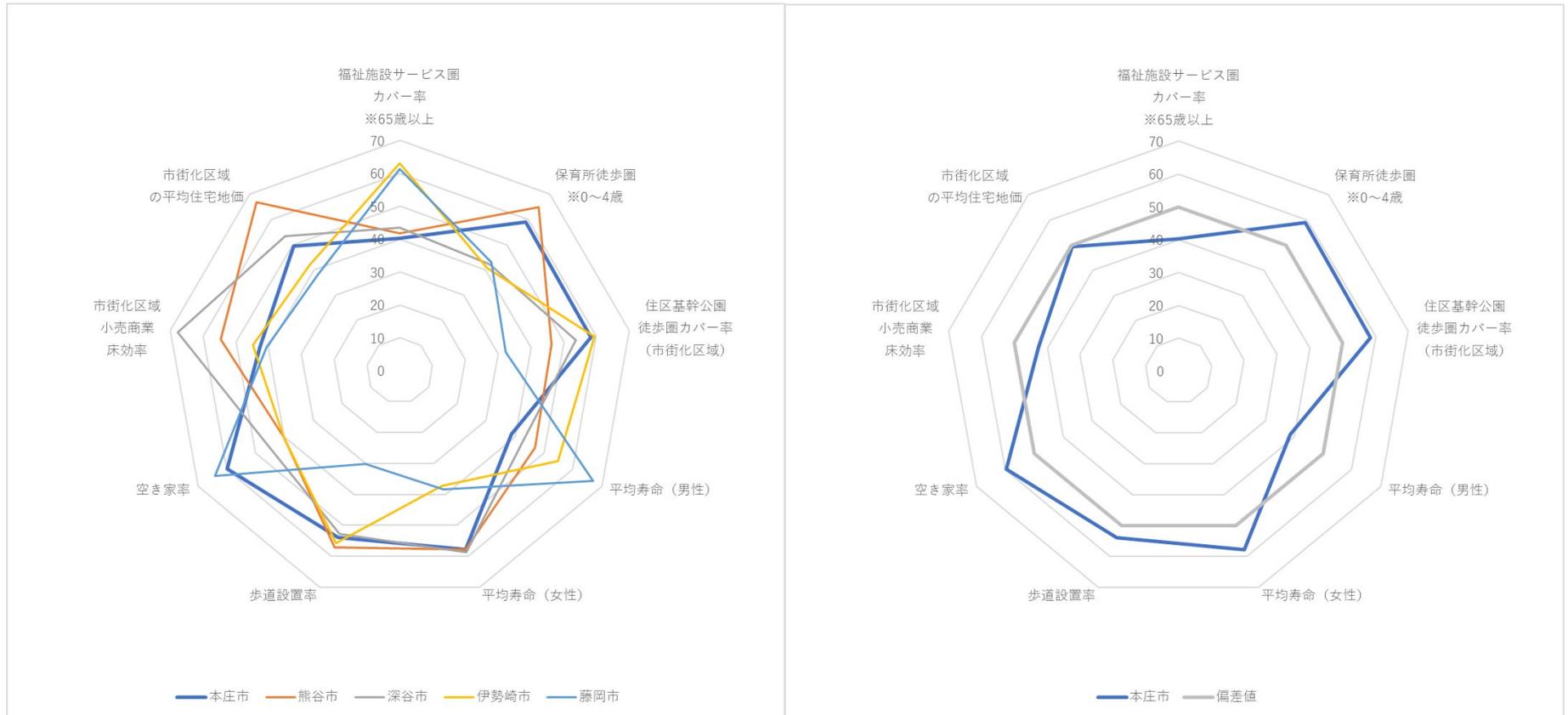
国土交通省「都市モニタリングシート」から作成

交通) 平均より基幹的公共交通 (30本/日以上) の運行水準のみ) 徒歩圏カバー率が高く公共交通利便性が高い。深谷市と比較して一人当たりの小型車走行台キロが短く、マイカー依存度は低い。

医療施設・商業施設) 平均と比べて徒歩圏カバー率が高く利便性が高い。医療施設徒歩圏の人口密度が高く持続可能性が高い。

福祉施設) 本市はカバー率が0となっており分析ができない

## 【参考】近隣同規模都市平均との比較③健康福祉・安全・産業



国土交通省「都市モニタリングシート」から作成

健康福祉) 熊谷市と並んで保育所の0~4歳カバー率が高い。住区基幹公園カバー率が高く公園利便性が高い。男性の平均寿命が平均より短い。  
 安全) 空き家率が藤岡市と並んで高い  
 産業) 市街化区域内の小売商業の床効率が平均より低い